

日南市埋蔵文化財調査報告書 第2集

日南市遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ

〔酒谷・吾田・油津・細田地区〕

1993.3

宮崎県日南市教育委員会

## 正 誤 表

『日南市遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ』

ページ	行	誤	正
P. 4	7	え	の
P. 4	14	埋	埋
P. 4	23	目 壓	目 壓
P. 5～P. 10	1	布 番号	その他 合計
P. 5～P. 6		羅	曜
P. 25	7	石 戸	石 戸
		主 郭	主 郭

日南市埋蔵文化財調査報告書 第2集

日南市遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ

〔酒谷・吾田・油津・細田地区〕

1993.3

宮崎県日南市教育委員会



飫肥地区



油津地区



細田地区



細田古墳

## 序

本市は、日南海岸に代表される豊かな自然とそれに育まれた歴史的遺産が多く残されています。

例えば、全国的にも数少ない重要伝統的建造物群保存地区として飫肥の城下町が選定されているのをはじめ、日向神話の舞台となり現在もなお厚い信仰を集めている鶴戸神宮や、島津氏と伊東氏の争乱の場となった飫肥城・新山城・酒谷城などの数々の城跡は、日南地区の歴史を語るうえで欠かせないものです。

しかしながら、埋蔵文化財についての調査は十分とはいえない状況でした。

近年、総合保養地域整備法（リゾート整備法）の制定に伴い、全国各地にリゾート開発の波が押し寄せています。本市においても、日南海岸から飫肥地区にかけて保養・歴史リゾートゾーン、大堂津地区から南郷町にかけては国際級海洋性リゾートゾーンに指定されており、いわゆるバブル経済の破綻により一頃の勢いは鎮静化したとは言え、各種開発の波は確実に押し寄せています。

本市教育委員会では、こうした状況を踏まえて、平成元年度から3ヶ年計画で分布調査を実施してきました。今回の調査により確認された埋蔵文化財はもちろんのこと、数多く存在するであろう未確認の埋蔵文化財が各種開発事業により不用意に破壊されることのないよう、この小冊子が役立てば幸いです。

最後になりましたが、調査の指導をお願いした文化庁・宮崎県教育委員会、調査に御協力いただいた調査補助員・地元関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成5年3月

日南市教育長 野邊行俊

## 例　　言

1. 本書は、日南市教育委員会が平成3・4年度に文化庁・宮崎県教育委員会の補助を得て実施した遺跡詳細分布調査の報告書です。また、国・県・市指定の文化財および平成元年度の遺跡詳細分布調査成果とその後に確認した遺跡についても合わせて報告しています。
2. 指定文化財については、その指定地内等で開発事業を行なう場合は、文化財保護法・宮崎県文化財保護条例・日南市文化財保護条例等に基づく現状変更許可申請を行ない、事前に許可を得ることが必要です。
3. 本書に掲載された遺跡（埋蔵文化財）は、すべて文化財保護法にいう「周知の埋蔵文化財包蔵地」です。なお、本書は平成4年度現在の遺跡分布を報告したものであり、今後遺跡数・分布範囲の変化が予想されます。
4. 「周知の埋蔵文化財包蔵地」において、土木工事等を実施しようとする場合には文化財保護法により「発掘（工事）に着手しようとする日の60日前までに文化庁長官に届け出る」必要がありますので、土木工事等の計画段階から下記へ照会・協議してください。  
また、国及び地方公共団体等が土木工事等を実施する場合には、土木工事等の通知書を提出することが必要です。

日南市教育委員会社会教育課：宮崎県日南市中央通1丁目1番地1（郵便番号887）

電話0987-23-1111内線529

宮崎県教育委員会文化課：宮崎県宮崎市橋東1丁目9番10号（郵便番号880）

電話0985-26-7251

5. 埋蔵文化財は地下に埋もれている性格上、現在確認されていなくても、工事中発見される場合があります。その場合は、文化財保護法の規定により「その現状を変更することなく、遅滞なく文化庁長官へ届け出る」必要があります。そのため、工事等を計画する場合はなるべく事前に日南市教育委員会社会教育課へ照会してください。
6. 本書及び埋蔵文化財に関する問い合わせは、上記の日南市教育委員会社会教育課ないし宮崎県教育委員会文化課へお願いします。

## 凡　　例

1. 指定文化財の範囲については（赤色）で、埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」）の範囲については（青色）で示している。点として所在する指定文化財、また、古墳などで一基単独で所在するものについては各々・で表示している。
2. 指定文化財の名称は指定の際の名称である。
3. 遺跡名は原則としてその場所の小字名で命名したが、一部についてはその地域での通称によった。
4. 地図上の「遺跡番号」は、すべて地名表のそれと一致する。
5. 「遺跡番号」は、集落跡・散布地・城跡等は一番号とし、古墳群・窯跡群等については群に対して一番号を付した。
6. 「遺跡番号」は行政区で区分し、100番台は鶴戸地区、200番台は東郷地区、300番台は飫肥地区、400番台は吾田地区、500番台は油津地区、600番台は酒谷地区、700番台は細田地区である。
7. 遺跡等の所在地は小字まで表示したが、地番等については日南市教育委員会へ問い合わせしてください。
8. 調査の組織

	平成3年度	平成4年度
調査主体	日南市教育委員会	日南市教育委員会
	菱口政俊（教育長）	菱口政俊・野邊行俊（教育長）
	潮 幸右（社会教育課長）	潮 幸右・日高匡慶（社会教育課長）
	日高匡慶（文化係長）	岩切秀明（文化係長）
庶務担当	田中さゆり（主事）	田中さゆり・井上トヨミ（主事）
調査担当	岡本武憲（主事）	岡本武憲（主事／係長）
調査指導	面高哲郎（県文化課主任主事）	面高哲郎（県文化課主任主事）
調査補助員	田畠年行	田畠年行
	新坂 浄	福田福一
	福田福一	鎌田留次郎
	鎌田留次郎 他	黒木正男 他

9. 現地調査は岡本と調査補助員が行なった。
10. 本書の編集執筆は岡本が行なった。

## 目 次

I 調査の経過	1
II 調査の方法	1
III 調査の結果	4
IV 埋蔵文化財包蔵地地名表	11
V 主要遺跡概説	23
VI 関係資料	29
VII 航空写真	37

付図 日南市遺跡分布図

## 図 版 目 次

第1図 日南市位置図	2
第2図 調査範囲設定図	3
第3図 油津山上古墳出土遺物略図	24
第4図 酒谷城跡縄張図	26
第5図 細田古墳石室実測図	28
第6図 吾田地区航空写真	37
第7図 油津地区航空写真	38
第8図 酒谷地区航空写真	39
第9図 細田地区航空写真	40
巻頭カラー	
1. 飯肥地区	
2. 油津地区	
3. 細田地区	
4. 細田古墳	

I 調査の経過

II 調査の方法

III 調査の結果

## I 調査の経過

日南市の遺跡詳細分布調査は、平成元年・平成3年・平成4年の3ヶ年にわたり実施した。各年度の対象地域及び予算は次のとおりである。(第2図参照)

年 度	調 査 対 象 地 区	調査総経費	国 補 助	県 補 助	備 考
平成元年	鶴戸・東郷・飫肥・吾田（一部）	1,014,550円	507,000円	250,000円	報告書印刷
平成3年	酒谷・吾田（残り）・油津	880,000円	440,000円	220,000円	
平成4年	細田	1,500,000円	750,000円	375,000円	報告書印刷

## II 調査の方法

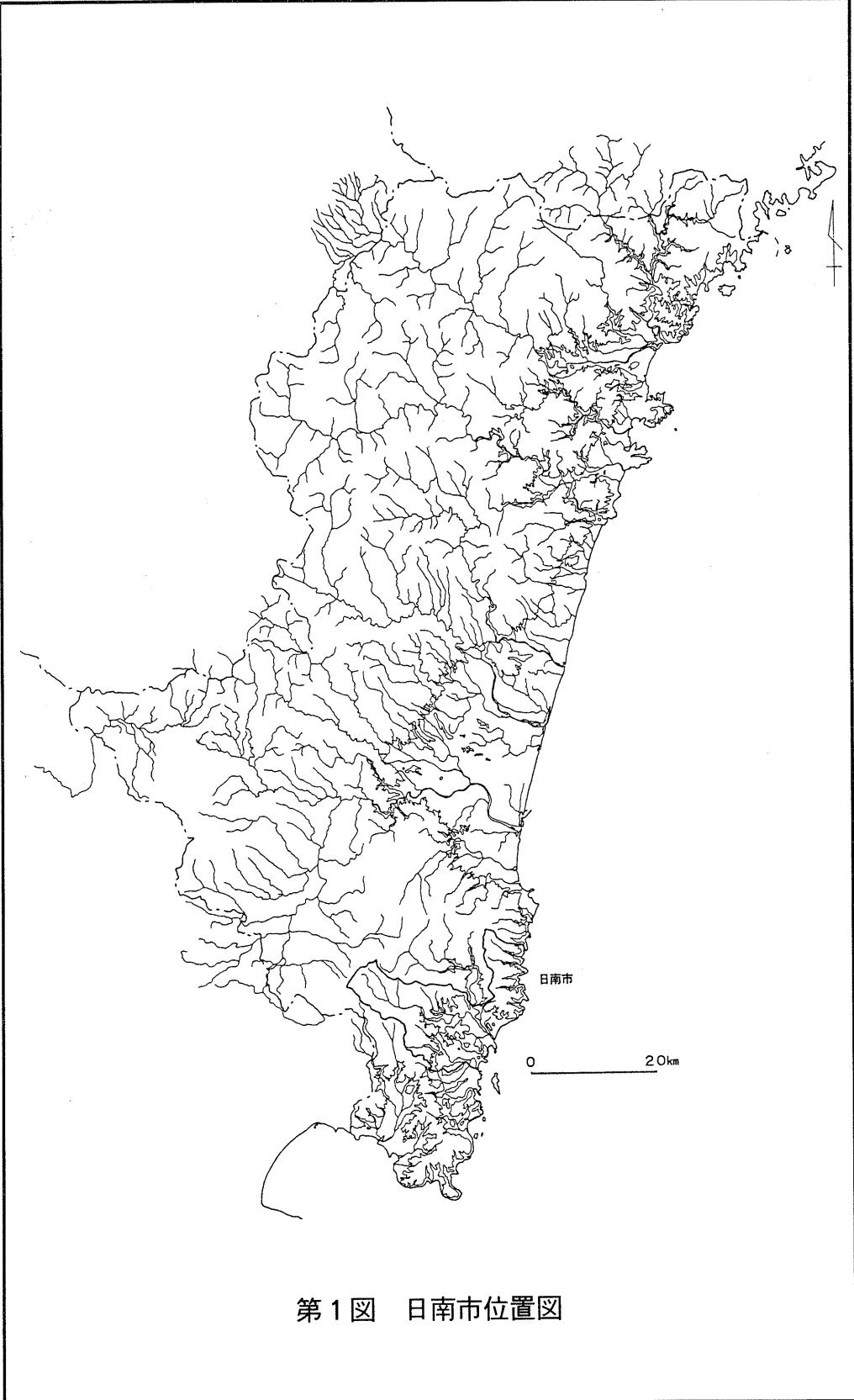
各年度ともに、6月から9月にかけては主に埋蔵文化財関係資料収集作業を行なった。関係資料収集作業としては、日南市内の遺跡に関する文献の収集、各種地図類の収集と市内広報による情報提供の呼びかけを行なった。また、市内各所の公共事業に伴うボーリング調査の報告書も参考のため収集した。

現地調査は、各年度とも稲作の取入れが終了する10月以降に実施した。調査には1/5000管内図を持ち歩き、原則としてすべての生活可能な平地と、城跡や古墳の立地する可能性がある山林を対象とした。遺物散布を確認した場合は、地形のまとまりごとに番号（地図番号と取り上げ番号の組合せ）を付して取り上げた。また、影平遺跡・飫肥城下町遺跡・飫肥城跡等の範囲確認調査を実施した。

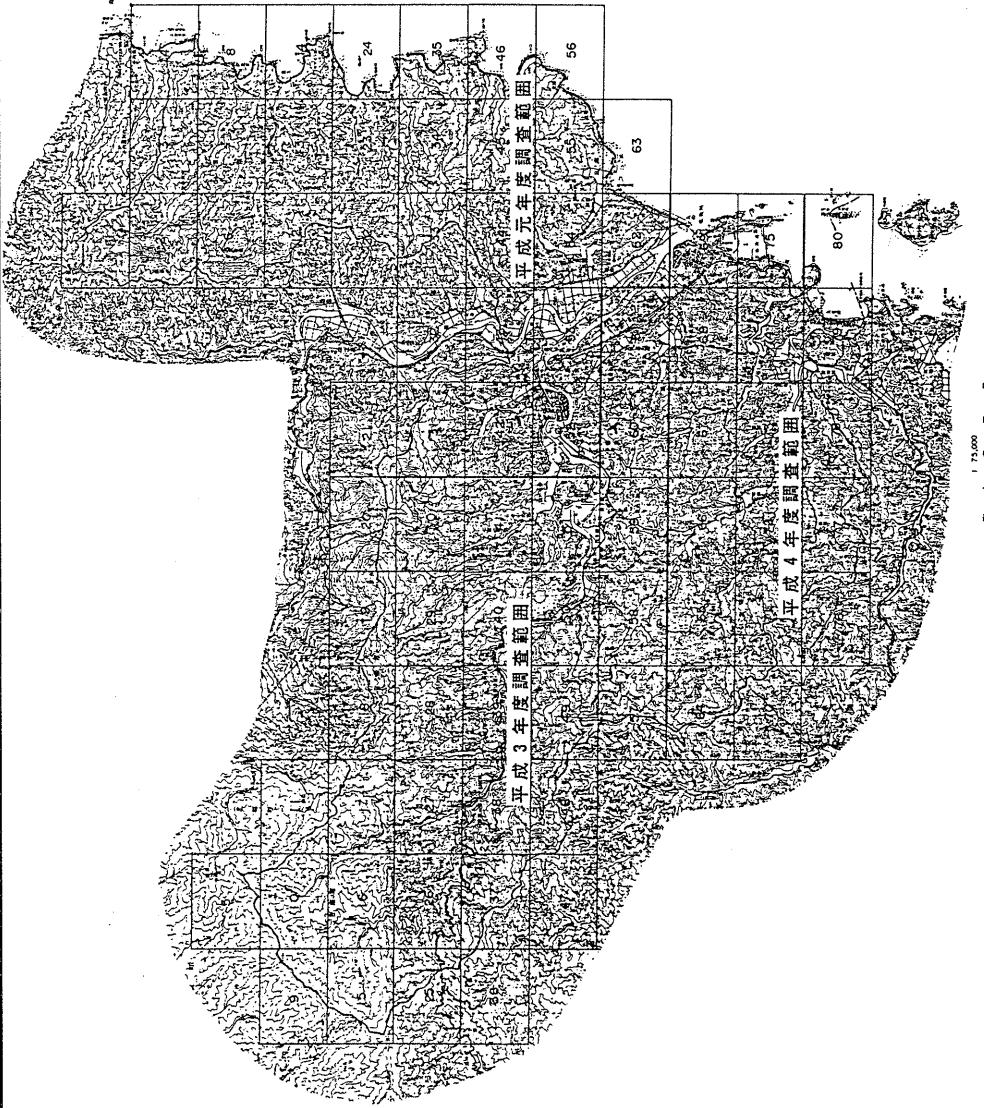
整理作業は、採集遺物のすべてを洗浄した後、取り上げ番号ごとに分類し、遺跡の年代を決定した。遺跡の範囲は、遺物の散布状況と周辺の地形を検討して決定した。また、遺跡ごとに台帳を作成した。台帳には、現況写真と国土地理院の1/25000地形図、1/5000の管内図に遺跡の範囲を記入して添付した。

以上の調査成果については本書にまとめた。

台帳については日南市教育委員会社会教育課と宮崎県文化課に一部ずつ保管している。



第1図 日南市位置図



第2図 調査範囲設定図

### III 調査の結果

平成元年度から実施してきた市内遺跡詳細分布調査の結果、鵜戸地区15ヶ所、東郷地区14ヶ所、飫肥地区22ヶ所、吾田地区35ヶ所、油津地区7ヶ所、酒谷地区28ヶ所、細田地区31ヶ所の合計152ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が確認できた。これに加えて、国・県・市指定文化財のうち不動産に係る文化財28ヶ所の合計180ヶ所が今回作成した遺跡分布図に「周知の遺跡」として記載できた。

昭和52年に文化庁が発行した「全国遺跡地図 宮崎県」によると、日南市管内には34ヶ所の遺跡が確認されていた。したがって、今回の調査により約120ヶ所の遺跡が新たに確認できた。

しかし、今回確認した遺跡の多くはシラス台地上もしくは山裾の微高地に立地している。このことは各時代の遺跡に共通しているため、そのような場所の生活条件が良いとも受け取られるが一方で、遺物の表面採集による遺跡確認という方法の限界を示しているともいえる。つまり、前回の報告のなかで触れたように、段丘上や山裾の耕地では遺物採集が容易である。それに対して水田地帯は休耕田が多く、雑草のため調査不能であることが多かった。また、水田は石や土器を排除してあるため遺物採集は困難である上に、遺跡が地中深く埋設している可能性があるため、今回のような調査結果になったものと考えられる。

以上のことから、遺跡の確認されなかった場所についても遺跡の存在する可能性は高く、今後とも遺跡の確認調査を積極的に行なう必要がある。

次に現在までに確認された遺跡を時代別に見てみる。

(旧石器時代) 現在のところ確認していない。

(縄文時代) 62ヶ所の遺跡を確認した。時期的には早期と後～晚期が多い。

(弥生時代) 16ヶ所の遺跡を確認した。飫肥地区に多い。

(古墳時代～平安時代・中世) 5ヶ所の古墳と19ヶ所の須恵器出土遺跡を確認した。

また、16ヶ所の布目压痛土器出土遺跡と132ヶ所の土師器出土遺跡を確認した。

輸入陶磁器の出土遺跡は13ヶ所である。

日南市遺跡詳細分布調査 遺物集計表

番号	遺 跡 名	縄文	弥生	須恵	土師	陶器	磁器	その他	番 号	備 考
101	鶯巣遺跡			1	9			5	15	
102	伊比井遺跡				3	6	1		10	鉄片1
103	本源寺遺跡	96			7	4	2		109	鉄片1・布目圧痕土器1
107	小目井遺跡				61			4	65	布目圧痕土器2
110	宮浦前田遺跡				17	1			18	布目圧痕土器1
113	吹毛井遺跡			1	5				6	土錘3
201	万ヶ迫遺跡				5	3		1	9	石器1・布目圧痕土器1
202	松ノ元遺跡	18							18	
203	狐塚古墳			8	1				9	
204	木場遺跡				18			4	22	
205	駒宮遺跡		1		48	6			55	布目圧痕土器1
207	前無田遺跡				7				7	
209	沢渡遺跡				4	1		1	6	
212	殿所遺跡	53	9	2	41	8			114	糸切底1
213	岩ヶ尾遺跡		1				1		2	
301	飛ヶ峯遺跡				76	6		3	85	埴輪1・高坏1
302	談義所遺跡	65	72		44	2			184	布目圧痕土器1・石器1・糸切底
303	糺遺跡				14				14	坏底1
304	菖蒲ヶ迫遺跡	8			11				19	
305	宮守ヶ迫遺跡	3			13	1			17	糸切底1
306	北ヶ迫遺跡	14	2		3			1	20	
307	西山寺遺跡	1	2	1	99	23			129	黒羅石1・石斧1・手つくね1

番号	遺跡名	縄文	弥生	須恵	土師	陶器	磁器	その他	番号	備考
308	上永吉遺跡				3	1			4	
309	片平遺跡	8			5	2			16	石器1
310	飫肥遺跡	1					1		2	
312	篠ヶ城遺跡	4			26	6	1	8	45	鉄滓1・石器7
313	上ノ原遺跡	2			17	3		1	23	
314	川辺ヶ野遺跡	10	2	1	135	7			156	黒羅石1・布目压痕土器1・石器1
315	八幡原遺跡					3			3	
316	原坂ノ上遺跡	76	22	1	62	4		4	169	黒羅石1
317	諏訪ノ馬場遺跡	72	7	1	22	2			104	ハソウ1
319	大原道遺跡				43	1		2	46	
403	枳迦門遺跡				16	1		1	18	
404	枳迦ヶ尾野遺跡				1	3			4	
405	前田下遺跡	1		1	30	1		1	34	
406	立久保遺跡				21				21	
407	上講遺跡	10	40		2				52	
408	射場遺跡					6				6
409	时任遺跡				10					10
411	川向遺跡					1				1
412	下山瀬遺跡					7				7
413	境ヶ谷北遺跡				13					13
414	境ヶ谷遺跡				56	1				57
415	境ヶ谷南遺跡				9	5				14

番号	遺 跡 名	縄文	弥生	須恵	土師	陶器	磁器	その他	番 号	備 考
416	野添遺跡	2			30				32	布目压痕土器5
417	和田迫遺跡				10	1			11	布目压痕土器1
418	横通遺跡				8				8	
419	縣城跡	2		1	87	2	5	1	98	輸入陶磁3
420	城ノ下遺跡				24				24	
421	中浦ヶ迫遺跡				11				11	
422	黒須田遺跡	2			4				6	
423	上尾山遺跡				28	1			29	
424	下尾山遺跡				28	1			29	
424	下尾山遺跡	1			23				24	布目压痕土器1
425	大谷遺跡				1	1			2	
426	海田西遺跡		1		2	2			5	
427	山王遺跡				4	8			12	
428	岩山遺跡						1	1	2	鉄器1
429	平峯遺跡	2			39		1	1	43	鉄滓1
430	上床遺跡	1			73	1		2	77	布目压痕土器1・鉄器1・石器1
431	峰ノ原遺跡			1	29		1	1	32	輸入陶磁1・石器1
432	六反田遺跡	1			5		3		9	輸入陶磁3
433	川北三遺跡	94	2	4	21	14			135	
434	川北一遺跡			1	15			1	17	石器1
435	平原遺跡	3			2				5	
501	影平遺跡	2			2		1	1	6	輸入陶磁1・石器1

番号	遺跡名	縄文	弥生	須恵	土師	陶器	磁器	その他	番号	備考
502	否手平遺跡				15				15	
503	山田上遺跡	2			22				24	
507	古奥遺跡									
601	酒谷上床遺跡									
602	鎌ヶ倉遺跡	6			5	1	1		13	
603	愛宕越遺跡				2				2	
604	宮下遺跡	8		4	98		11		121	輸入陶磁4
605	宮ノ原遺跡	10		1	80	35	22	3	151	輸入陶磁3・石器1・ 鉄器1
606	種子田遺跡	32			99	57	59	6	253	輸入陶磁7・土錘4・ 鉄器1
607	野地遺跡									
608	下村遺跡	2	2					2	6	鉄滓2
609	鶴戸谷遺跡	8			39	1	5	1	54	輸入陶磁2
610	峰久保遺跡				31	1	1	1	34	輸入陶磁1・鉄滓1
612	下永野遺跡	11	2		61	7	2		83	
613	迫間遺跡									
614	下原遺跡	2			27	3			32	
615	永野遺跡	4	1		106	8	3	14	136	輸入陶磁3
616	今別府原遺跡	15			5	2			22	
617	鯛ノ子遺跡	15			5	6			22	
618	秋山南遺跡				1				1	
619	秋山遺跡	1			13				14	
620	片頭遺跡	2			8		1		11	

番号	遺跡名	縄文	弥生	須恵	土師	陶器	磁器	その他	番号	備考
621	名尾遺跡	6			23	3		5	37	石器3・鉄滓2
622	石原遺跡	2			7	3			12	
623	石原西遺跡	2			4			1	7	
624	中尾遺跡				4				4	
625	下荒河内遺跡	24			1			3	28	黒色1・石器1・鉄器1
626	日永八重遺跡									
627	鷹取遺跡									
628	小布瀬遺跡									
701	南郷遺跡					3			3	
703	竹田遺跡				29	5		1	35	土錘
704	柿ノ木平遺跡	7			23	2		1	33	
705	石脇遺跡				4				4	
706	富山堂免遺跡	2			21	3			26	
707	馬込ヶ原遺跡	1			12	5			18	
708	宮ノ原遺跡	2	1		58				61	
709	東原遺跡	5		7	183	28	28		227	輸入陶磁2・布目压痕土器4
710	上村遺跡	2			9	6			17	
711	数権遺跡	2			11				13	
712	西ノ原遺跡	1		1	29	6		3	41	布目压痕土器1・鉄滓3
713	東遺跡			2	16	7			25	
714	大野遺跡				14				14	
715	井手ヶ原遺跡				4	14	1		19	

番号	遺跡名	縄文	弥生	須恵	土師	陶器	磁器	その他	番号	備考
716	蒸黒遺跡				2				2	
717	坂ノ上遺跡	2			9	17	1	8	37	輸入陶磁1・鉄器7・ 鉄滓1
718	中苑遺跡	1			6				7	
720	宝藏原遺跡					5			5	
721	上鶴遺跡	3			3	2			8	
722	菅谷遺跡	1			18	11			30	布目压痕土器1
723	梯ヶ谷遺跡							1	1	石器1
724	植山遺跡	3			19	2			24	
725	無田遺跡	1			2	3	4		10	輸入陶磁2
726	苦木遺跡									
727	横当遺跡	5			12	10			27	
728	五郎遺跡				2	3			5	
729	前畠遺跡	2				3			5	
730	開田遺跡							1	1	石器1
731	野入遺跡	7							7	

※採集遺物の大半は極小片であるため、表中の分類は必ずしも妥当であるとは限らない。

とくに、土師器に分類したものの中には、弥生～近世のものが混在していると見られる。

## IV 埋蔵文化財包蔵地地名表

## 鶴戸地区

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号	文 献	備 考
101	鶯巣遺跡	大字伊比井 字浜田	散布地	奈良 ～平安			
102	伊比井遺跡	大字伊比井 字塙屋之元	散布地	中世 ～近世			
103	本源寺遺跡	大字伊比井 字矢引迫他	散布地	縄文 ～近世			
104	天神ノ尾遺跡	大字伊比井 字坂口	墓 地 城 跡	中 世			
105	富土河内遺跡	大字富士 字永荷田	製鉄遺跡	不 明			
106	瀬平城跡	大字富士 字瀬平	城 跡	中 世			
107	小目井遺跡	大字富士 字前田	散布地	平安 ～近世			
108	宮浦古墳 (伝玉依姫陵)	大字宮浦 字上ノ園	古 墳	古 墳			
109	貝殻城跡 (水ノ尾城跡)	大字宮浦 字鬼ヶ久保	城 跡	中 世			
110	宮浦前田遺跡	大字宮浦 字前田	散布地	中 世			
111	吾平山古墳 (伝速日峯陵)	大字宮浦 字串平	古 墳	古 墳			
112	鳥帽子嶺砦跡	大字宮浦 字桑木迫	城 跡	中 世			
113	吹毛井遺跡	大字宮浦 字空田	散布地	中 世			
114	太田遺跡	大字富士 字太田	散布地	縄文 ～平安			
115	立石遺跡	大字宮浦 字立石	散布地	縄 文			

東郷地区

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号	文献	備考
201	万ヶ迫遺跡	大字風田 字万ヶ迫	散布地	平安 ～中世			
202	松ノ元遺跡	大字風田 字松ノ元	散布地	縄文	23-18		
203	狐塚古墳	大字風田 字弓場元	古墳	古墳	23-20		
204	木場遺跡	大字平山 字木場	散布地	古墳			
205	駒宮遺跡	大字平山 字別府	散布地	弥生 ～中世	23-19		
206	高佐砦跡	大字益安 字堀之内	城跡	中世			
207	前無田遺跡	大字東弁分乙 字前無田	散布地	中世			
208	鬼ヶ城跡	大字 字城ヶ平地	城跡	中世			
209	沢渡遺跡	大字松永 字沢渡	散布地	中世			
210	陣ヶ迫遺跡	大字松永 字陣ヶ迫	散布地	中世			
211	犬ヶ城跡	大字松永 字沢渡	城跡	中世	23-7		
212	殿所遺跡	大字殿所 字上ノ段他	散布地	縄文 ～中世			
213	岩ヶ尾遺跡	大字殿所 字岩ヶ尾	散布地	弥生 ～古墳			
214	中ノ尾砦跡	大字殿所 字城ヶ平他	城跡	中世			

## 飫肥地区

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号	文献	備考
301	飛ヶ峯遺跡	大字板敷 字出水ヶ尾	散布地	古墳 ～中世	23-5		
302	談義所遺跡	大字今町 字広木田	散布地	縄文 ～中世	23-4		
303	糺遺跡	大字板敷 字中島田	散布地	平安 ～中世			
304	菖蒲ヶ迫遺跡	大字板敷 字菖蒲ヶ迫	散布地	縄文 ～中世			
305	宮守ヶ迫遺跡	大字板敷 字宮守ヶ迫	散布地	縄文 ～中世			
306	北ヶ迫遺跡	大字板敷 字北ヶ迫	散布地	縄文 ～中世			
307	西山寺遺跡	大字板敷 字西山寺	散布地	縄文 ～中世	23-2		
308	上永吉遺跡	大字吉野方 字楠木原	散布地	中世			
309	片平遺跡	大字吉野方 字片平	散布地	縄文 ～中世			
310	飫肥城跡	大字楠原 字舞鶴跡	城跡	中世 ～近世	23-3		
311	飫肥城下町	大字楠原 字板敷他	城下町	近世			
312	篠ヶ城遺跡	大字吉野方 字篠ヶ城	散布地 城跡	縄文 ～中世	23-14		昭和59年 試掘 昭和63年 調査
313	上ノ原遺跡	大字吉野方 字上ノ原	散布地	縄文 ～中世			
314	川辺ヶ野遺跡	大字吉野方 字川辺ヶ野	散布地	縄文 ～中世			
315	八幡原遺跡	大字楠原 字八幡原	散布地	中世			
316	原坂ノ上遺跡	大字楠原 字原坂ノ上	散布地	縄文 ～中世	23-15		
317	諏訪ノ馬場遺跡	大字楠原 字諏訪ノ馬場	散布地	縄文 ～中世			
318	上城跡	大字楠原 字上城	城跡	中世			
319	大原道遺跡	大字楠原 字大原道	散布地	中世	23-16		
320	寺ノ尾遺跡	大字板敷 字寺ノ尾	散布地	弥生 ～中世			
321	長持寺廃寺跡	大字板敷 字前田	寺院跡	中世			
322	大迫寺廃寺跡	大字吉野方 字大迫寺	寺院跡	中世			

吾田地区

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号	文 献	備 考
401	堰ノ尾砦跡	大字星倉 字栗殿城	城 跡	中 世			
402	新山城跡	大字星倉 字本丸他	城 跡	中 世			
403	枳迦門遺跡	大字星倉 字枳迦門	散 布 地	中 世			
404	枳迦尾ヶ野遺跡	大字星倉 字立久保	散 布 地	古 墳 ～中世			
405	前田下遺跡	大字星倉 字前田下	散 布 地	繩 文 ～中世			
406	立久保遺跡	大字星倉 字立久保	散 布 地	中 世			
407	上講 遺跡	大字星倉 字上講	散 布 地	繩 文 ～中世	23-17		昭和63年 調査
408	射場 遺跡	大字星倉 字南原	散 布 地	中 世			
409	时任 遺跡	大字星倉 字石ヶ嶺	散 布 地	中 世			
410	下講 古墳	大字星倉 字石ヶ嶺	古 墳	古 墳			
411	川向 遺跡	大字星倉 字上汐浦	散 布 地	中 世			
412	下山瀬遺跡	大字星倉 字下山瀬	散 布 地	弥 生 ～中世			
413	境ヶ谷北遺跡	大字星倉 字境ヶ谷	散 布 地	中 世			
414	境ヶ谷遺跡	大字戸高 字境ヶ谷	散 布 地	弥 生 ～近世			
415	境ヶ谷南遺跡	大字戸高 字境ヶ谷	散 布 地	中世 ～近世			
416	野添 遺跡	大字戸高 字野添	散 布 地	繩 文 ～中世			
417	和田迫遺跡	大字戸高 字和田迫	散 布 地	弥 生 ～中世			
418	横通 遺跡	大字戸高 字横通	散 布 地	弥 生 ～中世			
419	縣城 跡	大字戸高 字古城他	城 跡	繩 文 ～中世			
420	城之下遺跡	大字戸高 字城之下他	散 布 地	弥 生 ～近世			
421	中浦ヶ迫遺跡	大字戸高 字中浦ヶ迫	散 布 地	弥 生 ～中世			
422	黒須田遺跡	大字戸高 字黒須田	散 布 地	繩 文 ～中世			

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号	文 献	備 考
423	上尾山遺跡	大字戸高 字上尾山	散布地	弥生 ～中世			
424	下尾山遺跡	大字戸高 字下尾山	散布地	縄文 ～近世			
425	大谷遺跡	大字戸高 字大谷	散布地	中世 ～近世			
426	海田西遺跡	大字戸高 字海田西	散布地	弥生 ～近世			
427	山王遺跡	大字隅谷甲 字山王	散布地	弥生 ～近世			
428	岩山遺跡	大字隅谷甲 字岩山	散布地	近世			
429	平峯遺跡	大字隅谷甲 字平峯	散布地	縄文 ～近世			
430	上床遺跡	大字隅谷甲 字上床	散布地	縄文 ～近世			
431	峰ノ原遺跡	大字隅谷甲 字峰ノ原	散布地	弥生 ～中世			
432	六反田遺跡	大字隅谷甲 字六反田	散布地	縄文 ～中世			
433	川北三遺跡	大字隅谷乙 字川北三	散布地	縄文 ～近世			
434	川北一遺跡	大字隅谷乙 字川北一	散布地	弥生 ～平安			
435	平原遺跡	大字隅谷丙 字平原	散布地	縄文 ～中世			

## 油津地区

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号	文献	備考
501	影平遺跡	大字平野 字影平他	散布地	縄文 ～中世			
502	否手平遺跡	大字平野 字否手原他	散布地	弥生 ～近世			
503	山田上遺跡	大字平野 字山田上他	散布地	縄文 ～中世			
504	沢津城跡	大字平野 字城ヶ平他	城跡	中世			
505	堀川運河	林木町他	運河	近世			
506	油津山上古墳	油津一丁目	古墳	古墳			
507	古奥遺跡	大字平野 字梅ヶ浜	散布地	平安			

## 酒谷地区

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧 番 号	文 献	備 考
601	酒谷上床遺跡	大字酒谷乙 字上床	散 布 地				
602	鎌ヶ倉遺跡	大字酒谷乙 字鎌ヶ倉	散 布 地	繩 文 ～近世			
603	愛宕越遺跡	大字酒谷乙 字愛宕越	散 布 地	中 世			
604	宮下遺跡	大字酒谷乙 字宮下	散 布 地	繩 文 ～近世			
605	宮ノ原遺跡	大字酒谷乙 字宮ノ原	散 布 地	繩 文 ～近世			
606	種子田遺跡	大字酒谷乙 字種子田	散 布 地	繩 文 ～近世			
607	野地遺跡	大字酒谷乙 字野地	散 布 地	近 世			
608	下村遺跡	大字酒谷乙 字下村	散 布 地	繩 文 ～近世			
609	鶴戸谷遺跡	大字酒谷乙 字鶴戸谷	散 布 地	繩 文 ～近世			
610	蜂久保遺跡	大字酒谷 字蜂久保	散 布 地	弥 生 ～近世			
611	酒谷城跡	大字酒谷乙 字城ノ下	城 跡	中 世			
612	下永野遺跡	大字酒谷乙 字下永野	散 布 地	繩 文 ～近世			
613	迫間遺跡	大字酒谷乙 字迫間	散 布 地	繩 文 ～中世			
614	下原遺跡	大字酒谷乙 字下原	散 布 地	繩 文 ～近世			
615	永野遺跡	大字酒谷乙 字永野	散 布 地	繩 文 ～近世			
616	今別府原遺跡	大字酒谷乙 字今別府原	散 布 地	繩 文 ～近世			
617	鯛ノ子遺跡	大字酒谷乙 字鯛ノ子	散 布 地	繩 文 ～近世			
618	秋山南遺跡	大字酒谷甲 字秋山	散 布 地	近 世			
619	秋山遺跡	大字酒谷甲 字秋山	散 布 地	繩 文 ～近世			
620	片頭遺跡	大字酒谷甲 字片頭	散 布 地	繩 文 ～近世			
621	名尾遺跡	大字酒谷甲 字名尾	散 布 地	繩 文 ～近世			
622	石原遺跡	大字酒谷甲 字石原	散 布 地	繩 文 ～近世			

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号	文 献	備 考
623	石原西遺跡	大字酒谷甲 字石原西	散布地	縄文 ～中世			
624	中尾 遺 跡	大字酒谷甲 字中尾	散布地	中 世			
625	下荒河内遺跡	大字酒谷甲 字下荒河内	散布地	中 世			
626	日永八重遺跡	大字酒谷甲 字日永八重	散布地	近 世			
627	鷹取 遺 跡	大字酒谷甲 字鷹取	散布地	近 世			
628	小布瀬遺跡	大字酒谷甲 字小布瀬	散布地	縄 文			

## 細田地区

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	旧番号	文 献	備 考
701	南郷城跡	大字下方 字東平他	城 跡	中 世			
702	内野原古墳群	大字下方 字仮屋西他	古 墳 群	古 墓			
703	竹田 遺 跡	大字上方 字竹田	散 布 地	弥 生 ～近世			
704	柿ノ木平遺跡	大字萩之嶺 字柿ノ木平	散 布 地	縄 文 ～近世			
705	石脇 遺 跡	大字萩之嶺 字石脇	散 布 地	弥 生 ～中世			
706	富山堂免遺跡	大字萩之嶺 字富山堂免	散 布 地	縄 文 ～近世			
707	馬込ヶ原遺跡	大字萩之嶺 字馬込ヶ原	散 布 地	縄 文 ～中世			
708	宮ノ原遺跡	大字萩之嶺 字宮ノ原	散 布 地	縄 文 ～中世			
709	東原 遺 跡	大字萩之嶺 字東原	散 布 地	縄 文 ～近世			
710	上村 遺 跡	大字萩之嶺 字上村	散 布 地	縄 文 ～近世			
711	数権 遺 跡	大字萩之嶺 字数権	散 布 地	縄 文 ～中世			
712	西ノ原遺跡	大字萩之嶺 字西ノ原	散 布 地	弥 生 ～近世			
713	東 遺 跡	大字塚田乙 字東	散 布 地	弥 生 ～近世			
714	大野 遺 跡	大字塚田乙 字大野	散 布 地	弥 生 ～近世			
715	井手ヶ原遺跡	大字塚田乙 字井手ヶ原	散 布 地	弥 生 ～近世			
716	燕黒 遺 跡	大字塚田乙 字燕黒	散 布 地	弥 生 ～中世			
717	坂ノ上遺跡	大字塚田甲 字坂ノ上	散 布 地	縄 文 ～近世			
718	中苑 遺 跡	大字塚田甲 字中苑	散 布 地	縄 文 ～近世			
719	新城 跡	大字上方 字新城	城 跡	中 世			
720	宝蔵原遺跡	大字萩之嶺 字宝蔵原	散 布 地	近 世			
721	上鶴 遺 跡	大字大窪 字上鶴	散 布 地	近 世			
722	菅谷 遺 跡	大字大窪 字菅谷	散 布 地	縄 文 ～近世			

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 别	時 代	旧 番 号	文 献	備 考
723	梯ヶ谷遺跡	大字大窪 字梯ヶ谷	散布地	縄 文			
724	植山遺跡	大字大窪 字植山	散布地	縄文 ～近世			
725	無田遺跡	大字大窪 字無田	散布地	縄文 ～近世			
726	苦木遺跡	大字大窪 字苦木	散布地	縄 文			
727	横当遺跡	大字大窪 字横当	散布地	縄文 ～近世			
728	五郎遺跡	大字大窪 字五郎	散布地	弥生 ～近世			
729	前畠遺跡	大字大窪 字前畠	散布地	縄文 ～近世			
730	開田遺跡	大字大窪 字開田	散布地	近 世			
731	野入遺跡	大字大窪 字野入	散布地	縄 文			

指定文化財一覧表

(平成3年8月1日現在)

番号	指定別	種 別	名 称	所 在 地	指定年月日
1	国指定	史 跡	中ノ尾供養碑	大字殿所1405番地口	昭9.8.9
2	"	天然記念物	鵜戸ヘゴ自生北限地帯	大字宮浦3232番地	昭43.6.14
3	"	"	東郷のクス	大字東弁分乙35番地	昭26.6.9
4	国選定		日南市飫肥伝統的建造物群保存地区	大字楠原・板敷・本町	昭52.5.18
5	県指定	建 造 物	大迫寺跡石塔群	大字吉野方字内ノ迫	昭40.8.17
6	"	無形民俗文化財	泰 平 踊	飫肥本町・今町	昭37.5.15
7	"	"	田ノ上八幡神社の弥五郎人形行事	大字板敷8178番地	平3.3.15
8	"	史 跡	東 郷 古 墳	大字風田	昭12.7.2
9	"	"	細 田 古 墳	大字下方字小谷山2466番他	昭12.7.2
10	"	名 胜	勝 目 氏 庭 園	大字楠原3896番地	昭8.12.5
11	"	天然記念物	鵜戸千疊敷奇岩	大字宮浦	昭8.12.5
12	"	"	飫肥のキンモクセイ	大字吉野方字山本	昭10.7.2
13	市指定	建 造 物	歓 樂 寺 の 墓 碑 群	大字隅谷(血の谷)	昭45.11.3
14	"	"	振 德 堂	大字板敷8193番地	昭45.11.3
15	"	"	鵜戸山別当墓地及び墓	鵜戸神宮境内	昭45.11.3
16	"	"	鵜戸山石灯籠のうち紙開発石灯籠一対	鵜戸神宮境内	昭45.11.3
17	"	"	鵜 戸 山 八 丁 坂	鵜戸神宮境内	昭45.11.3
18	"	"	豫 章 館	大字楠原4239番地	昭58.10.1
19	"	"	商 家 資 料 館	大字本町4152番地3	昭58.10.1
20	"	"	願成就寺並びに山門	大字今町8401番地	昭58.10.1
21	"	"	願成就寺石垣並びに石段	大字今町8401番地	昭58.10.1
22	"	"	旧伊東伝左衛門家	大字板敷8248番地2	昭62.11.3

番号	指定別	種 別	名 称	所 在 地	指定年月日
23	市指定	建 造 物	鵜 戸 神 宮 本 殿	鵜戸神宮境内	平3.8.1
24	"	書 跡	長 持 寺 の 勅 額	大字今町8401番地	昭45.11.3
25	"	彫 刻	鵜 戸 山 の 磨 崖 仏	鵜戸神宮境内	昭45.11.3
26	"	工 芸 品	松 永 觀 音 堂 鰐 口	大字松永	昭62.11.3
27	"	無 形 文 化 財	四 半 的	旧飫肥藩内	平3.8.1
28	"	史 跡	飫 肥 城 跡	大字楠原・板敷	平3.8.1
29	"	"	伊 東 家 累 代 墓 地	大字楠原字寺の脇4番地	平3.8.1
30	"	名 胜	豫 章 館 庭 園	大字楠原4239番地	昭58.10.1
31	"	天 然 記 念 物	八幡神社境内のクス	大字板敷田ノ上八幡神社境内	昭45.11.3
32	"	"	松 永 の シ イ	大字松永3499番地	昭45.11.3
33	"	"	願 成 就 寺 の イ ヌ マ キ	大字今町8401番地	昭58.10.1
34	"	"	願 成 就 寺 の モ ク セ イ	大字今町8401番地	昭58.10.1

## V 主要遺跡概說

## V 主要遺跡概説

### 1. 油津山上古墳（506）

油津港の背後に馬の背状に続く丘陵の西端に位置する古墳である。標高は10mで、堀川を挟んで対岸には吾平津神社がある。

この古墳は文久三年（1863）、飫肥藩が砲台を設置するために工事していたところ発見された。平部崎南の『日向纂記』の記録によると、小祠を建てていた跡かと思われるような平らな所の一ヶ所を深さ五、六尺（約150～180cm）掘り下げたところ、大きさ一二尺（約360cm）ばかりの自然の真石を三尺（約90cm）ばかりの間隔をおいて、左右の両側に築いた石垣（原文のまま）があり、底は平らな自然の岩石であった。その中に鏡が一面、環が一個、その他種々の玉がみられた。鏡は鋸びており形質は存するが用をなすことはできない。しかし、裏を磨くと古銅の色が蒼然としてなお残っており、天王日月の文字などが見られた。環は、金を被せて極めて極めて精金であり、玉はその形それぞれ異にしていたとあり、切子玉や勾玉等が図示されている。また、色についても、白・黄白・青緑色をしており、いずれもその光り玲瓏であったとある。更に記述は続き、西方の一ヶ所を掘り下げたところ、今度は太刀が一口あった。しかし鋸のため碎けてしまった。最初は何も考えず掘っていた人夫達も後には、事の重大さに驚愕し、飫肥藩庁に届出たと述べている。平部崎南が見聞した主体部や出土状況の記述は以上のとおりである。

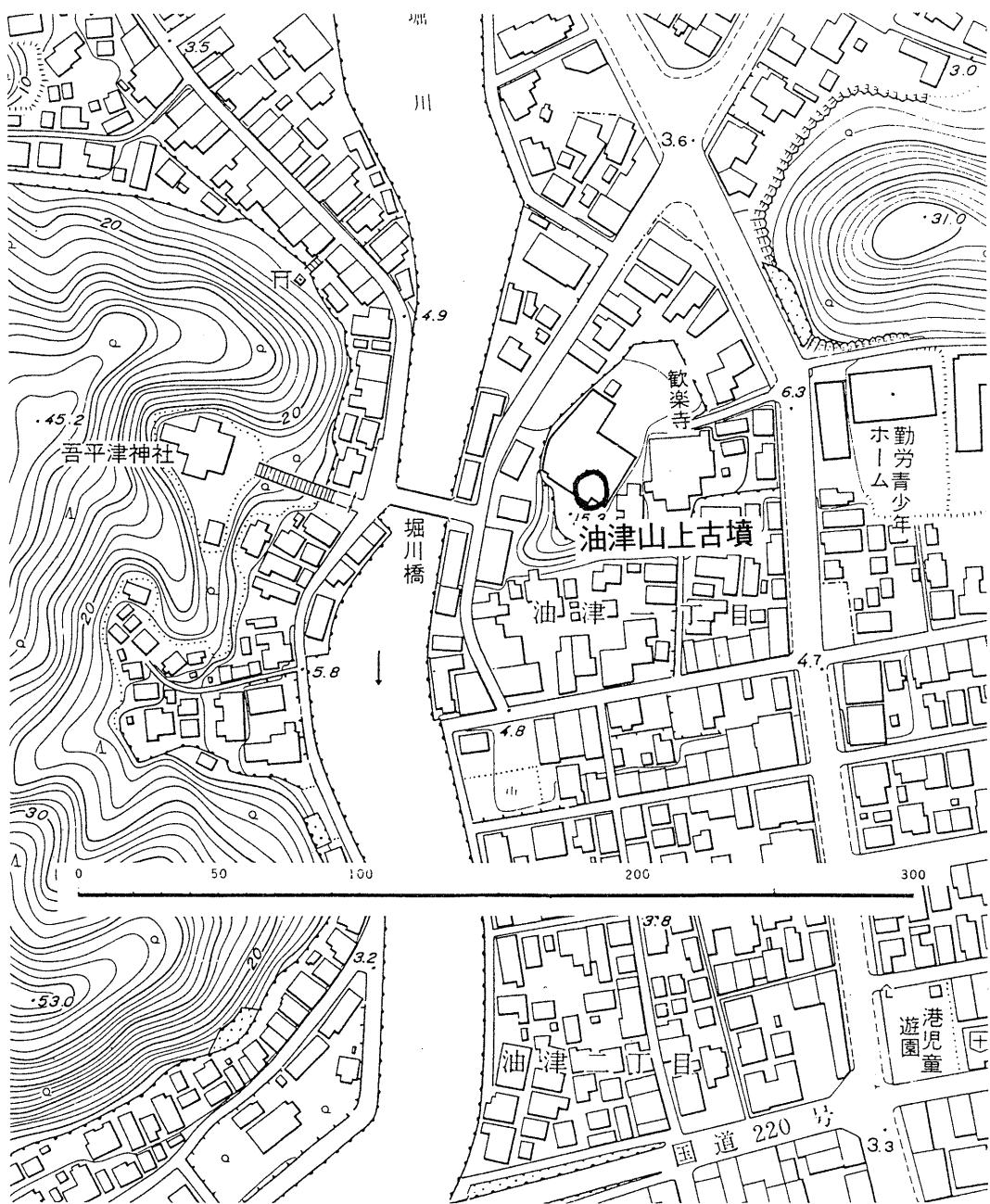
遺物の内、鏡と金具残片一包は、その後宮内省に差し出されたとみられ、現在東京国立博物館に「南那珂郡飫肥吾平山」「南那珂郡飫肥吾平津陵」出土として保管されている。その他の『日向纂記』に図示されている勾玉（三点）・管玉（二点）・切子玉（二点）・小玉（四点）の所在は不明である。鏡は面径二〇.九cmの画文帶神獸鏡である。内区は欠失している。

古墳の形態は、県古墳台帳では瓢形と記載されている。しかし、その後現地を調査された瀬之口傳九郎氏は円墳説をとられているが、地形併せてすべてが滅失した現在、それを決することはできない。なお、主体部は『日向纂記』の記述から判断すれば、前後両壁を欠いた竪穴式石室系の石室であったとみられる。古墳時代中期後葉に編年されよう。

文献 平部崎南『日向纂記』明治十八年（一八八五）

宮崎県『宮崎県史蹟調査』第六輯 南那珂郡之部 昭和二年（一九二七）

※この項は田中茂「油津山上古墳」『宮崎県史資料編 考古2』1993を一部改編して掲載させていただいた。



第3図 油津山上古墳出土遺物略図  
(平部崎南『日向地誌』より)

## 2. 酒谷城跡（611）

酒谷川に沿って、飫肥城から約5km上流（西方）に位置する。城は酒谷川に向かって延びたシラス台地の丘陵上に築かれている。

村田修三は、『図説中世城郭事典』（1987）のなかで南九州型の城の代表例として酒谷城を取り上げて以下のように説明している。

「宮崎県の酒谷城は志布志城によく似た地形であるが、伊作城のように中央に縦割りの掘りを入れてある。山上は空堀で七区画に分かれ、段差を加えて分けると11の曲輪になる。図中の1～11は曲輪の面の高さの順に打ってある。普通なら一番高い1が主郭戸なるべきところだが、余りにも粗放な造りである。虎口の工夫から見ると、8が最もできのよい曲輪である。西南の堀底から北上して11に入り、東の隅へ迂回して桟形状の窪みから8に入るのが大手のルートである。（南面に石段で上がる東南・西南のルートは、後世の神社の参道である。）8を主郭とすれば、4～11の群は、堀底道を結び合う一体の縄張となる。ただし、諸所に新しい改修が見受けられるので、こういうまとまりができたのは後のことであろう。2と3は4・6との間の空堀によって隔離され、この空堀のルートで城外と連絡する。1と2・3間の隔離は一層はなはだしく、1に入るルートは専ら2・3との間の空堀による。以上のように、8を防御する縄張は改修によって改善されているにもかかわらず、城域全体は1と2・3群と4～11群の三つに分散してまとまりがない。戦国末期に改修を加えてもどうしようもないほどのまとまりのなさが基本的な特徴として指摘されねばならないのである。酒谷川の下流にある飫肥城は典型的な分散型で、近世飫肥藩の本城になってから、前方の三郭を均して近世城郭に作り変え、後方の数郭は放棄せざるをえなかった。（後略）」

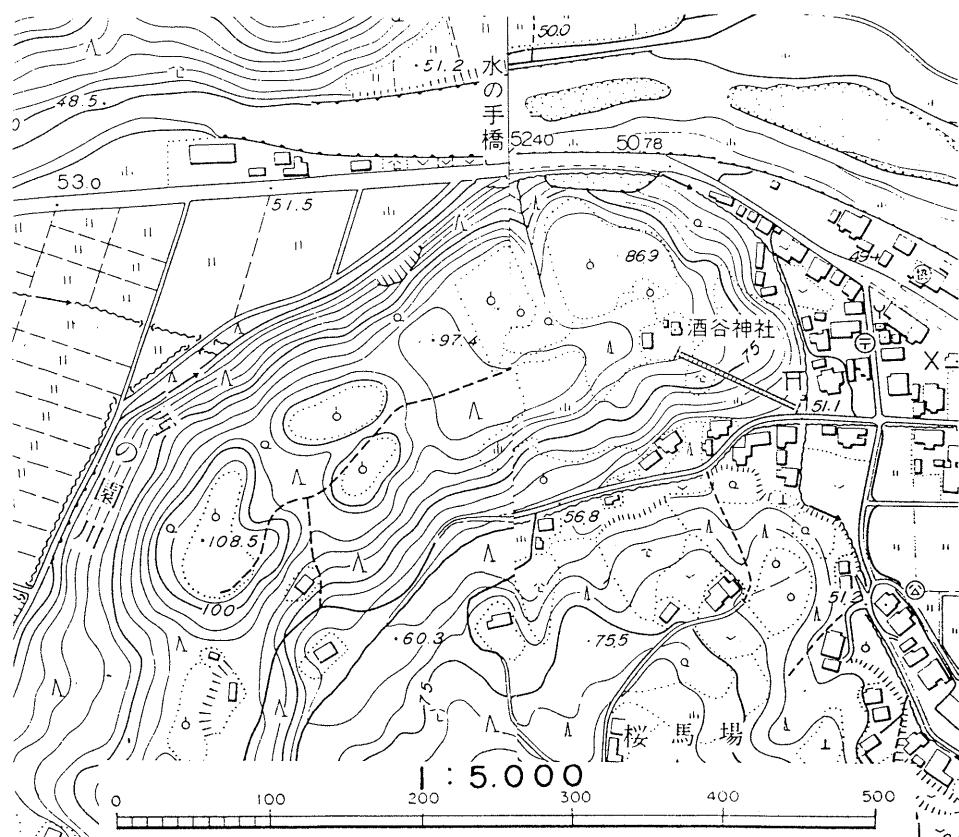
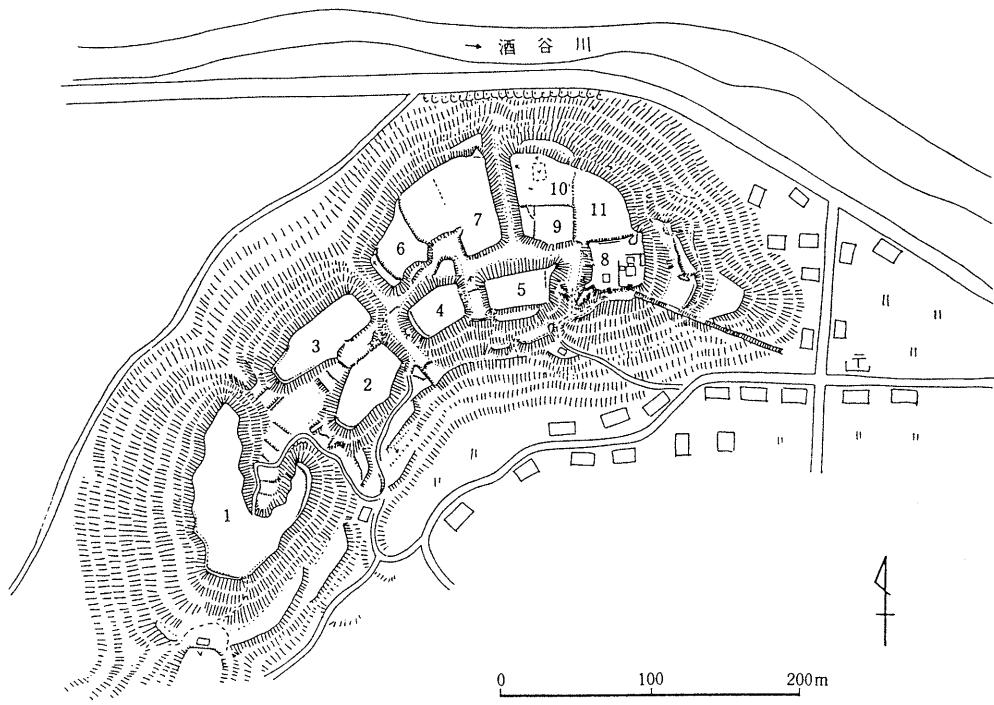
村田の論を発展させた千田嘉博は、「戦国期城郭・城下町の構造と地域性」『ヒストリア』第129号（1990）で南九州型城郭を「九州館屋敷型城郭」と呼称し、その成立及び性格について「この地域が平地の支配・生活拠点の他に軍事専門の山城を発達させなかったからだと考えられる。平地の拠点自身がそのまま城郭化するコースを選んだのである。そのため九州館屋敷型城郭は館型城郭・館の集合体であった面影を残しつつ、防御性を發揮しやすい台地に占地し、壮大な堀に軍事性を収斂していくことになったのである。」と述べている。

いずれにしても、縄張規模が壮大で、保存状態良好であるため、南九州を代表する中世城郭である。今後の総合的な調査研究が待たれる。

文献 村田修三『図説中世城郭事典（三）』新人物往来社 1987

千田嘉博「戦国期城郭・城下町の構造と地域性」『ヒストリア』第129号

大阪歴史学会 1990



第4図 酒谷城跡縄張図

### 3. 細田古墳（9）

細田川と南郷川の合流地点の北西約1kmの独立丘陵上に立地する。丘陵は南北約60m、東西約35m、標高16m（比高差12m）で、近辺には同様の独立丘陵が点在する。

平部崎南の『日向地誌』によると、天保年間に村人が丘陵を開墾していたところ「石櫛」を堀だし、開墾を中止したとある。「石櫛」の蓋石は長さ九尺（約2.7m）、幅五尺（約1.5m）と記されている。この蓋石は、幕吏の巡行に伴う道路橋梁の修繕に際し、小溝の橋に使用された。しかし、明治の初めに古墳の石材と知った村長が元に戻させたとある。その後『郷土誌細田町』によると、明治43年（1910）の耕地整理に際して蓋石が取り去られたとある。

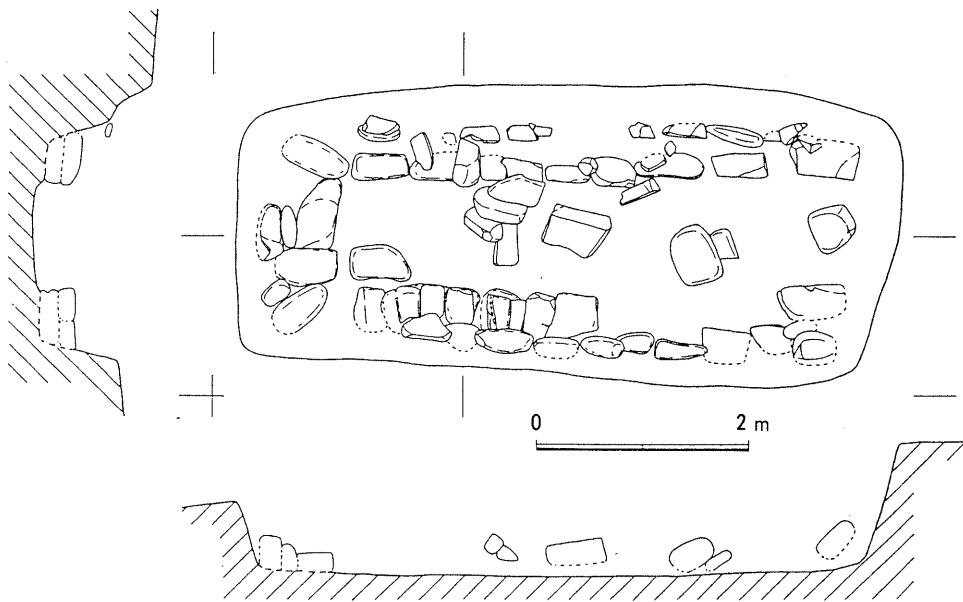
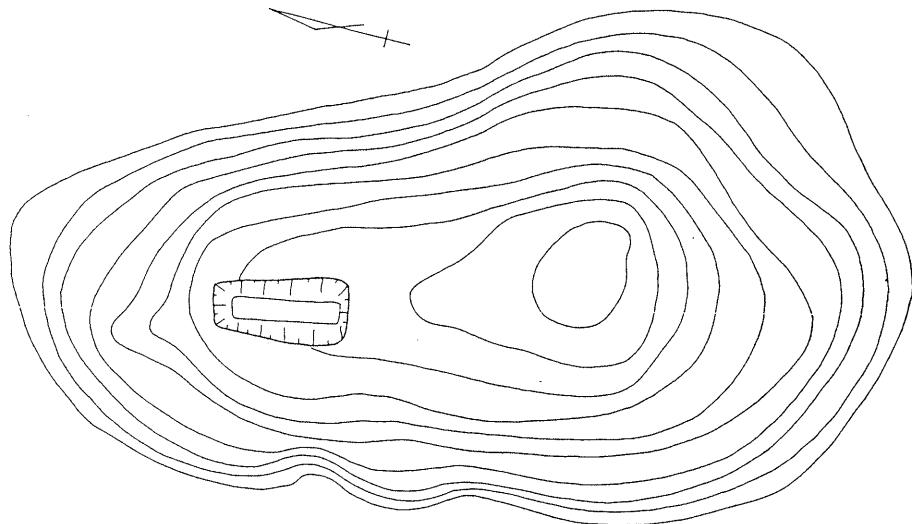
平成2年（1990）、日南市教育委員会が主体部の確認調査を行なった。主体部は自然丘陵の岩盤に墓壙を掘り込み、竪穴式石室を構築している。石室の規模は長さ4.8m、幅1.0m、高さは推定で0.5mを測る。石室の長軸はほぼ南北方向（磁北より西へ15度振る）である。石室の構造については大半の石材が抜き取られているため詳細は不明である。わずかに残された基底部の積石状況からは、海岸部から運んできた60cm前後の泥岩を適当に配列しており、とくに規則性が感じられない。とりわけ石室の南辺部（小口）には石積みがなく、底部と同じく岩盤をそのまま使用していたとみられる。『郷土誌細田町』には天井石が11枚程度あったとある。副葬品については不明であるため、築造時期を明確にし得ないが、5世紀前半頃が妥当であろう。『郷土誌細田町』には周辺の自然丘陵にも古墳があることを記録している。

文献 平部崎南『日向地誌』

細田町郷土誌編さん委員会『郷土誌細田町』 1951



細田古墳写真



第5図 細田写真古墳石室実測図

## VI 関係資料

## 日南市関係文献

(史料・資料集)

- ・原口虎雄『三国名勝図絵 第1～4巻』青潮社1982
- ・若山甲藏『日向文献史料』日向文献史料刊行会1934
- ・宮崎県『日向古文書集成』1938(名著出版1970)
- ・東京帝国大学文学部史料編纂所編纂『大日本古文書 家わけ十六ノ一』
- ・高山彦九郎遺稿集刊行会『筑紫日記 高山彦九郎全集第4巻』1954
- ・東京大学文学部史料編纂所編纂『大日本古記録 上井覚兼日記 上・中・下』1954・1957
- ・石川恒太郎編『日向郷土史料集 第一巻』日向郷土史料集刊行会1961
- ・石川恒太郎編『日向郷土史料集 第二巻』日向郷土史料集刊行会1961
- ・石川恒太郎編『日向郷土史料集 第三巻』日向郷土史料集刊行会1961
- ・石川恒太郎編『日向郷土史料集 第四巻』日向郷土史料集刊行会1962
- ・石川恒太郎編『日向郷土史料集 第五巻』日向郷土史料集刊行会1963
- ・石川恒太郎編『日向郷土史料集 第六巻』日向郷土史料集刊行会1963
- ・石川恒太郎編『日向郷土史料集 第七巻』日向郷土史料集刊行会1965
- ・平部嶠南『伊東藩正史(藩簡譜増補)』1875写
- ・平部嶠南『日向私史』(1884著)1887
- ・平部嶠南『日向纂記』南那珂郡教育会1927
- ・平部嶠南『日向地誌』青潮社1976(復刊)
- ・平部嶠南『日向古迹誌』歴史図書社1977(復刊)
- ・平部嶠南『六郷荘日誌』青潮社1978
- ・平部嶠南『嶠南日誌 第一巻 慶応元年-明治元年』宮崎県立図書館1991
- ・平部嶠南『嶠南日誌 第二巻 明治二年-明治七年』宮崎県立図書館1992
- ・竹内理三『日向國諸荘園史料集(一・二)』1963・1967
- ・小寺鉄之助『宮崎県百姓一揆史料』1956
- ・小寺鉄之助『近世御仕置集成』宮崎県史料編纂会1962
- ・宮崎県『宮崎県史資料編 考古1』1989
- ・宮崎県『宮崎県史資料編 古代』1991
- ・宮崎県『宮崎県史史料編 中世1』
- ・宮崎県『宮崎県史史料編 近世1』1991
- ・宮崎県『宮崎県史史料編 近・現代1』1991
- ・宮崎県『宮崎県史資料編 民俗1』1992
- ・宮崎県『宮崎県史資料編 民俗2』1992
- ・宮崎県立図書館編『宮崎県史料 第1～8巻』1975～1982
- ・鹿児島維新史料編纂所編『鹿児島県史料 旧記雑録追録(8冊)・同前編(既刊2冊)・

同後編（既刊6冊）』1979～

- ・宮崎県総合博物館『図説 宮崎の歴史』1967
- ・宮崎県総合博物館『特別展 「日向の古地図と古書」出品目録』1975
- ・宮崎県総合博物館『宮崎県総合博物館収蔵資料目録 考古歴史資料編』1983
- ・宮崎県総合博物館『宮崎県総合博物館収蔵資料目録 民俗資料編』1985
- ・宮崎県総合博物館『宮崎県総合博物館収蔵資料目録 動物・地質編』1986
- ・宮崎県総合博物館『宮崎県総合博物館収蔵資料目録 植物編』1986
- ・宮崎県総合博物館『置県100年記念 郷土の先覚者展図録』1983
- ・宮崎県総合博物館『館蔵品に見る 宮崎の自然と歴史』1992

（日南）

- ・長倉英士『舊藩中役名役場調書』1900
- ・宮崎県鉄道管理所編『飫肥油津線鉄道案内』1913
- ・飫肥先人祭編『飫肥藩先人伝』1919
- ・松本南城『日南有志名鑑』1923
- ・宮崎県『宮崎県史蹟調査 第六輯南那珂郡之部』1927
- ・野辺政一『細田我が村の誇』細田村教育委員会1929
- ・『宮崎縣主催 郷土資料展覧会出品目録』1930
- ・南那珂郡郷土史料展覧会編『郷土史料要覧』1930
- ・飫肥郷土史研究会『郷土史料 飫肥藩節約令』1931
- ・飫肥郷土史研究会『嶺南大和尚』1932
- ・柳田耕雲『常樂院沿革史』常樂院1932
- ・日南郷土史研究会『日南郷土史資料』1934
- ・小村壽太郎侯誕生記念碑建設會『小村壽太郎侯略傳』1934
- ・図師幸嗣『飫肥の舊跡 第一輯』飫肥郷土史研究会1938
- ・堀江保藏「飫肥藩の紙専売と大阪資本」『経済史研究二十四卷』1940
- ・永友宗清編『鶴戸の宮居』鶴戸神宮1942
- ・日向弁甲材林業組合編『日向弁甲材の紹介』1947
- ・細田町郷土史編纂委員会編『郷土史 細田町』1951
- ・小村壽太郎顯彰會『小村壽太郎の横顔』1951
- ・神戸雄一『小村壽太郎』日向文庫刊行会1952
- ・浅野茂夫・黒木重敏『飫肥杉の歴史』日向文庫刊行会1955
- ・斎藤実正『堀川と飫肥杉』1955
- ・日南市『日南市勢要覧 昭和25年版』1956
- ・飫肥林業発達史調査会編『飫肥林業発達史』1958
- ・木野義人『5萬分の1 地質図幅説明書 飫肥』地質調査所1959

- ・日南市役所編『日南市のあゆみ 市政施行10周年記念号』1960
- ・日高次吉「日向の和紙」『日本産業大系 九州地方篇』東大出版会1960
- ・宮崎日日新聞社『日南鉄道開通記念 飫肥藩史展』1963
- ・南那珂市町村組合『南那珂市町村組合史』1963
- ・塩谷勉・鷺尾良司『飫肥林業発達史 服部林産研シリーズNo.2』服部林産研究所1965
- ・黒木勇吉『小村寿太郎』講談社1968
- ・油津漁業共同組合『創立七十年史』1972
- ・相原慧『日南郷土資料（一）飫肥分限帳（文政十三庚寅年十一月）』1972
- ・相原慧『郷土史研究便覧（史料の二）』1973
- ・鵜戸神宮編『鵜戸神宮』1973
- ・野田敏夫校訂『飫肥藩分限帳』日向文化談話会1974
- ・相原慧『第一編 祐國の飫肥攻』1979
- ・相原慧『第二編 義祐の飫肥攻』1979
- ・相原慧『第三編 木崎原合戦』1979
- ・相原慧『第四編 義祐落ちる』1979
- ・相原慧『第五編 伊東氏 飫肥を領す』1979
- ・相原慧『長岡孝充氏の記録 天保以後年代記』1979
- ・相原慧『第七編 家系図とその事蹟』1972
- ・相原慧『第八編 上町の史話（その一）』1972
- ・相原慧『第九編 上町の史話（二）』1972
- ・相原慧『第十編 木山の史話（付影平）』1973
- ・相原慧『河宗と河野宗四郎翁』1975
- ・飫肥小学校『百年の歩み 飫肥小学校百年史』1975
- ・図師幸憲『飫肥藩先人伝』1976
- ・野田敏夫校註『鵜戸詣道の記』鵜戸神宮1976
- ・日南市教育委員会『飫肥伝統的建造物群保存対策調査報告書』1976
- ・野口逸三郎「飫肥藩の教育」『宮崎県地方史研究紀要 第三輯』宮崎県立図書館・宮崎県公共図書館連絡協議会1976
- ・飯田達夫「南家 伊東氏藤原姓大系図」『宮崎県地方史研究紀要 第三輯』宮崎県立図書館1976
- ・校史編集委員会『望洋（吾田小学校の歩み）』1977
- ・飯田達夫「西南の役と飫肥隊」『宮崎県地方史研究紀要 第四輯』宮崎県立図書館・宮崎県公共図書館連絡協議会1977
- ・池上一成『伊東家の歴史』1977
- ・原田伴彦・山口修編『江戸時代図誌 第23巻西海道二』筑摩書房1977

- ・飯田達夫『飫肥城と伊東家〈I〉～〈V〉』
- ・飯田達夫編『飫肥西郷いくさ』
- ・日南地方史趣味の会編『西郷いくさ飫肥』
- ・吉田常政『城下町飫肥ガイド—九州の小京都—』財「飫肥」城下町保存会1978
- ・川山博造「選定後の課題 城下町飫肥の町並み」『歴史的町並みのすべて』財団法人環境文化研究所1978
- ・中島新一郎・飯田一雄『井上真改大鑑』刀剣春秋新聞社1978
- ・日南市史編纂委員会『日南市史』1978
- ・(飫肥城復元促進協力会)『飫肥城』1979
- ・日南市立図書館編『日南郷土史年表』
- ・蛇原清『油津方言集』1979
- ・山之城民平『近世飫肥史稿 山之城民平遺稿集』1979
- ・永井哲雄「日向の戦国大名伊東氏について—その成長過程と支配機構の一、二について—」『宮崎県地方史研究紀要 第六輯』宮崎県立図書館・宮崎県公共図書館連絡協議会1980
- ・澤武人「飫肥と飫肥城」『宮崎県地方史研究紀要 第六輯』宮崎県立図書館・宮崎県公共図書館連絡協議会1980
- ・倉岡良幸『飫肥食物史考』1980
- ・中島俊一『振徳堂』1980
- ・日南市『日南市飫肥町並み保全修景計画報告書』1980
- ・宮崎県『宮崎県地質図説明書』1981
- ・小山田稔「城下町「飫肥」保存への課題」『環境文化第50号特集 歴史的町並みの総点検』財団法人環境文化研究所1981
- ・徳永孝一「「飫肥商社事件」について—資料にみる商社成立事情と裁判のなりゆき—」『宮崎県総合博物館研究紀要 第6輯』1981
- ・日南市・小村寿太郎侯奉賛会『小村寿太郎 小中学生の為に』1981
- ・図師幸憲「野中金右衛門と飫肥」『宮崎県地方史研究紀要 第八輯』宮崎県立図書館・宮崎県公共図書館連絡協議会1982
- ・徳永孝一「佐藤信淵のみた日向諸藩—飫肥藩の和紙専売を中心にして—」『宮崎県地方史研究紀要 第八輯』宮崎県立図書館・宮崎県公共図書館連絡協議会1982
- ・村中芳松・後藤保編『郷土鶴戸の史的歩み』1982
- ・図師幸憲「小村寿太郎と明治外交」『宮崎県地方史研究紀要 第九輯』宮崎県立図書館・宮崎県公共図書館連絡協議会1982
- ・日南市教育委員会『郷史学習教材スライド ふるさとの歴史を訪ねて—城下町飫肥—（解説書）』1983
- ・日南市教育委員会『郷史学習教材スライド ふるさとの歴史を訪ねて—飫肥杉と堀川運河—

(解説書)』1983

- ・関昌壽『有名歌人 日南の旅 人とその作品』鉱脈社1983
- ・日南市教育委員会『日南市の文化財』1984
- ・油津小学校記念誌編集委員会『津の峰 油津小学校百拾年の歩み』1985
- ・日南市教育委員会『旧伊東伝左衛門家住宅の修理』1986
- ・日南市教育委員会『社会科副読本 わたしたちの日南市 小学3年生用』1986
- ・春口勝弥他『日南地方に於ける切支丹灯籠に関する調査報告書』南九州大学造園学科日南地方庭園研究グループ1986
- ・初鹿野信二『波紋—初鹿野信二投稿集一』1986
- ・菊池茂春「武家屋敷縁あふれる南国の城下町—日南市飫肥」『町並み保存のネットワーク』第一法規1987
- ・国立療養所日南病院『創立四十周年記念誌』1986
- ・図師幸憲「飫肥藩」『藩史大辞典 第7巻九州編』雄山閣出版1988
- ・吉田常政「飫肥国（飫肥・北郷）安国寺をめぐって」『宮崎県地方史研究紀要 第十六輯』宮崎県立図書館・宮崎県公共図書館連絡協議会1989
- ・日南郷土史会『日南郷土史会誌 創刊号』1990
- ・日南市教育委員会『日南市埋蔵文化財調査報告書 第1集 日南市遺跡詳細分布調査報告書〔鶴戸・東郷・飫肥・吾田地区〕』1990
- ・日南市教育委員会『城下町 飫肥の町なみ 伝統的建造物群保存地区概要』1990
- ・宮崎県『中部・南那珂地域土地分類基本調査 日向 青島』1990
- ・創立百周年記念誌委員会『創立百周年記念誌 あがた』吾田小学校1990
- ・柳田耕雲『続常樂院沿革史』常樂院1990
- ・吉田常政『飫肥地方の史跡考』鉱脈社1991
- ・日南郷土史会『日南郷土史会誌 平成3年第2号』1991
- ・田中繁男『成瀬家秘史 断絶之譜』1991
- ・瑞巖寺博物館『瑞巖寺第百世 洞水東初禅師展—没後三二〇年を記念して—』1991
- ・日南市観光協会『日南市堀川運河シンポジウム』1991
- ・日南市観光協会『日南市堀川運河シンポジウム 議事録』1991
- ・県史編さん室「考古資料紹介 記録にみえる考古資料・狐塚古墳」『宮崎県 県史だより 第14号』1991
- ・吉田常政『飫肥城下町周辺の史跡（増訂版）』1992
- ・吉田常政『日南郷土史余話』1992
- ・宮崎県考古学会県南地区例会資料『南日向の中世』1992
- ・大分市歴史資料館『霸權をめざした英雄たち 大友宗麟とその時代』1992
- ・日南市・小村寿太郎侯奉賛会『小村寿太郎小伝』1992

- ・宮崎県『南那珂地域土地分類基本調査 飫肥』1992
- ・南那珂医師会『南那珂医師会史 明治史料篇上・下』1992
- ・日南市『おびの杉』
- ・宮崎県四半的弓道連盟『四半的』
- ・広重『六十余州名所図会 油津ノ湊 飫肥大島』
- ・広重『諸国六十八景 日向飫肥大島』
- ・『日本地誌略圖 油津港』

(埋蔵文化財)

- ・宮崎県内務部編『宮崎県古墳台帳』1918
- ・上代日向研究所『研究資料第二 日向上代遺跡遺物地名表』1944
- ・石川恒太郎『宮崎県の考古学』吉川弘文館1968
- ・文化庁文化財保護部『全国遺跡地図 宮崎県』1977
- ・鈴木重治『日本の古代遺跡 25宮崎』保育社1985
- ・吉本正典「篠ヶ城遺跡—広域農道建設工事にともなう発掘調査概略一」『宮崎県文化財調査報告書第32集』1989

(城郭)

- ・石川恒太郎『日本城郭体系 16 大分・宮崎・愛媛』新人物往来社1977
- ・橋口嵐山『宮崎県古城秘録』1978
- ・石川恒太郎「飫肥(日南)城下町絵図」『日本城下町繪圖集・九州篇』新人物往来社1980
- ・村田修三『図説中世城郭辞典 第三巻』新人物往来社1987
- ・宮崎考古学会『平成2年度宮崎県考古学会秋季研究会 日向の中世山城の現状と課題』1990

(石造物)

- ・多田隈豊秋『九州の石塔 下巻』 西日本文化協会1978
- ・坂口雅柳『九州六地蔵考』西日本新聞社1979
- ・宮崎県『史蹟名勝天然記念物調査報告 第十二輯日向ノ金石文』1942
- ・久保常晴「宮崎県の題目板碑」『立正大学人文科学研究所年報8』1970
- ・渋谷忠章「九州地方3 大分県・宮崎県」『板碑の総合研究』1983
- ・宮崎県教育委員会『山内石塔群』1984
- ・栗原文蔵「板碑に関する二三の観察」『埼玉考古学論集—設立10周年記念論文集—』1991
- ・前田博仁「近世日向の仏師—快然・延寿院・円立院を中心として—」『宮崎県地方史研究紀要第十六輯』宮崎県立図書館・宮崎県公共図書館連絡協議会1990

## 地図類

- 日南市都市計画図 1/2500 (26枚組)  
昭和57年10月撮影 国際航業株式会社
- 日南市管内図 1/5000 (80枚組)  
昭和58年10月撮影 国際航業株式会社
- 日南市管内図 1/10000 (7枚組)  
昭和58年12月 1/5000を縮小編集 国際航業株式会社
- 宮崎県日南市 1/10000 (1枚)  
昭和25年測量、昭和55年印刷 富士マイクロサービスセンター
- 宮崎県日南市都市計画図(白図) 1/10000 (1枚)  
昭和58年1月 1/2500の縮小 国際航業株式会社
- 日南市管内図 1/2500 (2枚組)  
昭和54年7月 宮崎マイクロサービス
- 日南市管内図 1/5000 (1枚)  
国土地理院の地形図を昭和55年9月複製 宮崎マイクロサービス
- 国土地理院旧版地図(折迫・飫肥) 1/5000  
明治35年
- 国土地理院地形図(日向青島・油津・飫肥・郷之原) 1/2500  
昭和36年
- 日南市小字図 1/10000  
年代不詳
- 日南市地形図 1/3000  
昭和39年頃  
(その他) 日南市航空写真(密着) 使用カメラRMK 15/23  
昭和39年5月26日 1/12500 日本航業株式会社

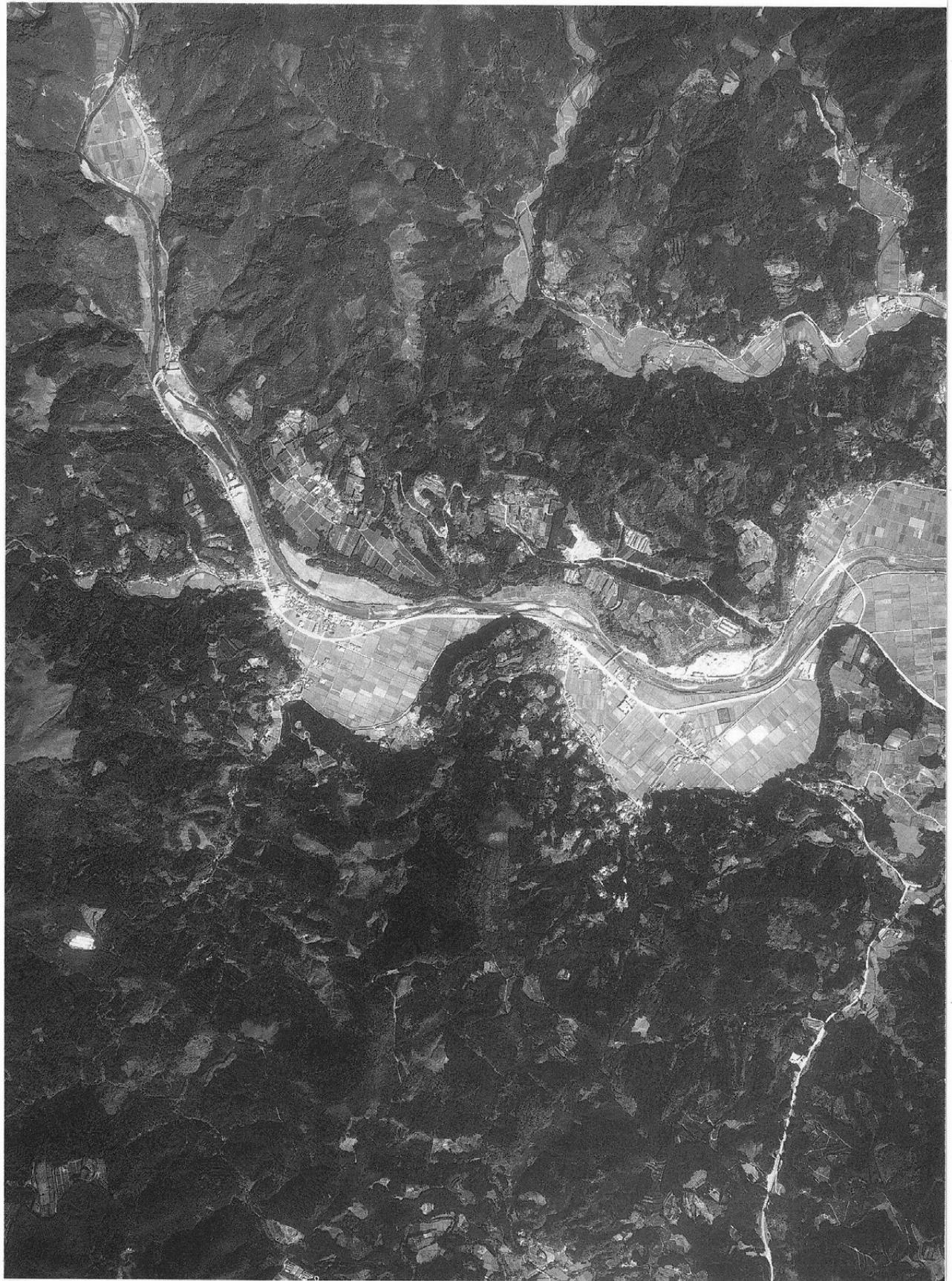
## VII 航空写真



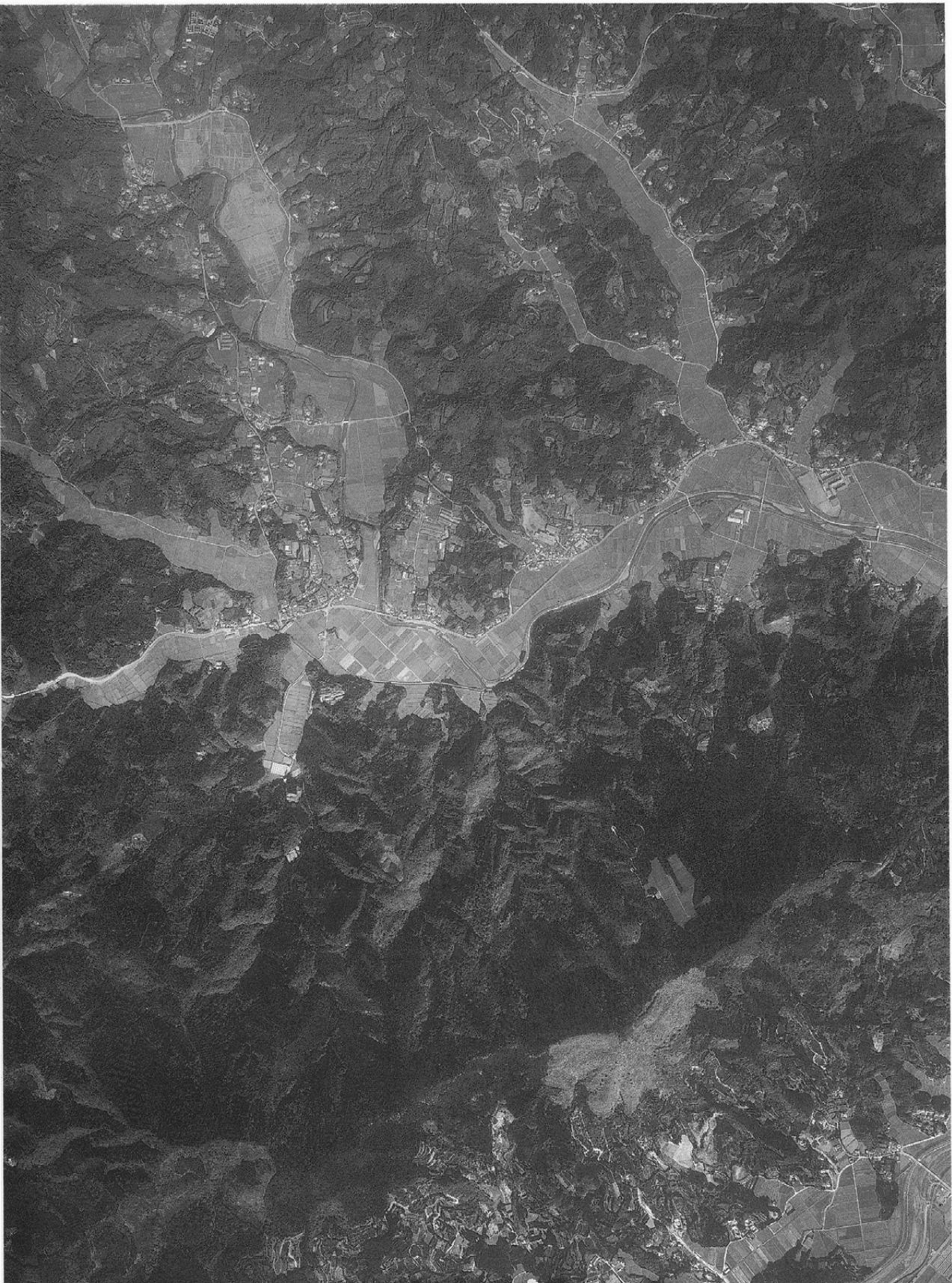
第6図 吾田地区航空写真



第7図 油津地区航空写真



第8図 酒谷地区航空写真



第9図 細田地区航空写真

日南市遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ

〔酒谷・吾田・油津・細田地区〕

1993年3月

編集・発行 日南市教育委員会

〒887 日南市中央通1丁目1番地1

電話 0987-23-1111内線529

印 刷 株式会社 宮崎マイクロサービスセンター

〒880 宮崎市吉村町曾師前甲3169-4

電話 0985-25-9568



21

# 日南市遺跡分布図

## 平成5年3月現在 日南市教育委員会社会教育課



都

A detailed topographic map of a mountainous region in Miyazaki Prefecture, Japan. The map features numerous contour lines indicating elevation changes. A prominent railway line runs diagonally across the center of the map. Several settlements are marked with labels in Japanese, including '高則' (Kōri), '開山' (Kai-san), '石元' (Ishimori), '別府' (Bettō), '長野' (Nagano), and '市太内' (Shitainai). The terrain is rugged, with deep valleys and high peaks.

## 凡例

この地図は、建設省国土地理院の承認を得て同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号)昭54九種、第320号

# 日南市遺跡分布図

## 平成5年3月現在 日南市教育委員会社会教育課

